



## 世界を先導するイノベーションを 創出し、持続的な経済社会の 発展を目指す

### 久間 和生

内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 常勤議員

日本の最重要課題である持続的経済成長を実現するためには、科学技術イノベーションの創出が不可欠である。そうした中、「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)」では、国民にとって真に重要な課題解決を図るとともに、日本の経済成長に寄与できる10の課題に取り組み、イノベーションの創出に挑む。SIPのガバナリングボード議長を務める久間和生議員は、強力なプログラムディレクターの下、全勝を目指したいと力強く語る。

総合科学技術・イノベーション会議では、内閣総理大臣、科学技術政策担当大臣のリーダーシップの下、各省を俯瞰する立場から、総合的な科学技術・イノベーション政策の企画立案を進めてまいりました。その施策の1つであるSIPは、省庁の枠や旧来の専門分野を超えて、基礎研究から実用化・事業化までを見据えて一貫通貫で研究開発を推進し、科学技術イノベーションの実現を目指す国家プロジェクトです。

私は常々、イノベーションには、「持続的イノベーション」と「破壊的イノベーション」の2つがあると唱えてきました。強い事業をより強くし、製品価値の持続的向上を担うのが持続的イノベーションであるとするなら、封書やはがきがEメールに、地図帳がカーナビに、あるいは同軸ケーブルを用いた電気通信が光ファイバ通信に取って替わられたように、パラダイムシフトを伴うものが破壊的イノベーションと言えます。そういった意味でSIPは、主として前者の持続的イノベーションを担うプロジェクトであり、日本が世界を先導しなくてはならない10の重要課題に取り組みます。SIPが持続的経済成長を牽引するためには、1つの取りこぼしも許されません。ぜひ、10勝0敗を目指したいと思います。

その実現には省庁連携のための司令塔機能が不可欠であり、SIPでは内閣府自らが年間500億円の予算を預かって、各省庁の役割を明確に設定し連携させながらプログラムを推進する画期的な試みを実施しています。また、規制緩和から知財・特許、国際標準化まで、事業化の際に欠かせないさまざまな施策も、一体的に進めてまいります。

さらに、SIPの最大の特徴と言えるのが、省庁連携と産学官連携を強力に推進できるリーダーシップを有するプログラムディレ

クター(PD)を選定している点です。10課題のうち早期に実現可能と思われる5課題については産業界から、残り5課題はアカデミアから、経験豊富で国内トップクラスのPDを選出することができました。

3年後、5年後の成果目標を明確にしたロードマップを描き、出口戦略を明確に示して、トップダウンにより研究開発を推進するのも、このプログラムの大きな特徴と言えるでしょう。毎年評価を行い、定量的に検証することで、状況に応じてフレキシブルに達成時期や目標性能、また予算を組み直すというのも、国家プロジェクトとしては革新的な試みです。また2015年度は「重要インフラ等におけるサイバーセキュリティの確保」を新規課題候補として設定しました。

このような新たな施策に取り組む背景には、SIPを省庁連携による研究開発モデルのひな形にしたい、という強い思いがあります。そして、かつて1964年の東京オリンピックを契機に、日本が新幹線や衛星放送を世に送り出したように、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会においても、日本から世界に貢献する科学技術イノベーション成果を発信することを、大いに期待しています。

#### Profile

1977年東京工業大学大学院博士課程電子物理工学専攻修了(工学博士)。同年三菱電機株式会社入社(中央研究所勤務)。98年半導体事業本部人工網膜LSI事業推進プロジェクトマネージャ、2003年先端技術総合研究所長、06年常務執行役開発本部長、10年専務執行役半導体・デバイス事業本部長、11年代表執行役副社長、12年常任顧問。13年総合科学技術会議議員(常勤)、14年より現職。



## 原山 優子

内閣府 総合科学技術・イノベーション会議 常勤議員

SIPは旧来の分野・府省の枠を超えて、基礎研究から実用化・事業化までを見据えて研究開発をデザインし、PDを核にイノベーションの実装を目指す新しい取り組みです。日本に新たな活力を吹き込むべく、イノベーションのポテンシャルを総動員する、この仕掛けが根付いていくことを期待します。



## 内山田 竹志

トヨタ自動車株式会社 取締役会長  
一般社団法人日本経済団体連合会 副会長  
内閣府 総合科学技術・イノベーション会議議員

日本の産学官の叡智を集めたオールジャパン体制で、基礎から応用・実用化までを一気通貫に取り組む研究プログラムを創設しました。PDのリーダーシップの下、明確な出口志向により、大きな産業成果に繋がることを期待しています。



## 小谷 元子

東北大学原子分子材料科学高等研究機構長  
兼大学院理学研究科数学専攻教授  
内閣府 総合科学技術・イノベーション会議議員

PDの強力なリーダーシップのもとに、日本のトップレベルの科学・技術を統合し明確な出口設定達成する新しい枠組み。効率よいマネジメントシステムを作っていたきたい。プロジェクトの成功は日本再興の重要要素と期待しています。



## 中西 宏明

株式会社日立製作所代表執行役会長兼CEO  
一般社団法人日本経済団体連合会 副会長  
内閣府 総合科学技術・イノベーション会議議員

SIPでは社会のさまざまな重要課題をイノベーションで解決を図ります。オールジャパン体制で本プログラムを推進し、グローバルな産業競争力を高めるとともに、地域の再生も目指します。日本再興に向けた今後の成果に期待しています。



## 橋本 和仁

東京大学大学院工学系研究科教授  
内閣府 総合科学技術・イノベーション会議議員

基礎研究から実用化、さらに社会実装までを視野に入れたSIPは、今後の我が国の府省横断型研究プロジェクトの先駆けとなるべきものです。研究者コミュニティはもとより、社会も大変注目しています。素晴らしい成果を期待しています。



## 平野 俊夫

大阪大学名誉教授  
内閣府 総合科学技術・イノベーション会議議員

常に「頂」を見据え、一步一步の積み重ねを忘れない、それこそがSIPを成功に導く鍵となります。府省や組織の枠にとらわれず、我が国が有する叡智を結集し、遥かそびえ立つ「頂」を目指してひた走る、SIPの取り組みに期待しています。



## 大西 隆

日本学術会議会長  
豊橋技術科学大学学長  
内閣府 総合科学技術・イノベーション会議議員

これまで、やや拡散傾向にあった各省が行う研究プログラムが、SIPのPDの下で、組織的に進められるようになったことはよかった。諸プロジェクトが連携して、達成度を高めることに期待したい。



戦略的イノベーション創造プログラム  
Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program